

中井だよい

中井やまゆり園

中井時間で感じた気づき

生活第二課 秋寮長 野口 もと子

この4月から秋寮に配属になりました。中井やまゆり園での勤務は初めてとなります。新採用は津久井やまゆり園からスタートしました。毎日の散歩、夏のプール、1泊旅行、手作り餃子の夕食会など、先輩職員を習いながら無我夢中で利用者の方と過ごした楽しい思い出があります。

時代は変わり、立場も変わり、コロナ禍での中井やまゆり園での勤務が始まりました。個性豊かな秋寮の利用者の皆さん、ご家族、ともに働く職員と多くの出会いがあり、新しい生活様式を整えながら、現在を迎えています。

働き出して数か月が過ぎた頃、同時期に配属された職員と「まだ数か月しか過ぎていないけど、一日、一週間が長く、時間が経つのが遅く感じられる」と感想を語り合いました。

前職場のさがみ緑風園では、忙しさで走馬灯のごとく時間が過ぎ去っていきました。あっという間の十年間でした。ここ数か月で一体自分に何が起きているのか。とある話を思い出しました。

「子供の頃を思い出して下さい。子供の頃は夏休みがゆっくりと過ぎていたと感じませんか。脳科学者のディウィットさんは 記憶が詳細なほど、その瞬間は長く感じられる。しかし、周りの世界が見慣れたものになってくると、脳が取り込む情報量は少なくて済み、時間が速く過ぎ去っていくように感じられる。」と言っています。

中井に配属となり、改めて自分の中に起きている変化を、以下の言葉に当てはめていくと。

- 一、 学び続けること。新しい経験が得られて、時間感覚がゆっくりになる。
- 二、 新しい場所を訪ねる。定期的に新しい環境に脳をさらす。
- 三、 新しい人に会う。他人とのコミュニケーションは脳を刺激する。
- 四、 新しいことを始める。新しい活動への挑戦。
- 五、 感動を多くする。

この年齢での転勤と子供の頃の体験を同様に語ることは無謀なことかもしれませんが、ここから始まった中井やまゆり園での時間の流れは自分を変えているものと思います。

利用者の方を知ること、支援を学ぶこと、ご家族の想いを理解すること、職員と利用者の方の変化を語り合うこと、毎日を丁寧に積み重ねていくことなど、目の前のできごとは日々新鮮です。利用者の方々のかけがいのない大切な時代をともにしている自覚を持ち、忙しさや慣れに流されないように意識しながら『中井時間』を維持できるように努めていきたいと思っています。

引き続き、コロナ禍で先の見通しがつき辛い状況が続きます。距離はとってもここは近くにあるように、利用者の皆様、ご家族、後見人の皆様を思いやり、気遣いながら支援を行ってきたいと思っています。